

midnight parade

Bellefleur

ミッドナイト・パレード・イントロ

(作詞 nemoasakura 作曲 jacky penguin dog 編曲 nemoasakura)

やっとお目覚めかい？随分お寝坊さんだね。

日が沈んでからもうだいぶ経って、この部屋も幾分冷えてきたから勝手にストーブを入れさせてもらったよ。

君から行こうと誘ってきたのに酷いじゃないか。こんな時間まで眠りこけているなんてね。

ほら、カーテンを開けて、2階の君の部屋から表の通りを見下ろしてごらんよ。

もうお祭りは始まっているんだ。ハツカネズミ達が引くチャリオットはこの街一番のアルチザンが作ったという話だよ。

猫たちが持っているのはペポカボチャのランタンだね。あ！あそこに山羊をつれた子供達がいるだろう？

彼らの学校がパレードの終着点さ。遠くに見える明かりがそうだね。薪をたくさん集めていたようだから、きっと大きなかがり火があるんだろうね。

少し雲が出ているようだけど、ちゃんと月も、星達も見えるよ。

ほら、はやく準備しておくれよ。ちょうど今がパレードも最高潮さ。

年に一度の行進祭だから僕もずいぶん楽しみにしていたんだよ？

僕のこの格好を見てくれよ。街まで行って特上のウールを買ってきて自分で仕立てたマントさ。

動物たちの仮装行列に負けないようにボタンも自分であしらったんだよ。

かわいいかい？かわいいだろう！今日くらいは褒めてくれたっていいだろう？

ほら君のコートだ。財布をわすれないでくれよ？

寝坊の罰さ。何か甘いお菓子を買ってくれないと僕の怒りが収まらない。そうだね。歩きながら考えよう。朝まで時間はまだたっぷりあるんだから。

そうだ。蜂蜜酒を暖めておいたから、飲みながら行こうよ。気が利くだろう？どこかの誰かさんとは違うのさ。

はやく行こうよ。特等席に案内してくれるんだろう？

街を見下ろす教会の屋根の上。そこから見渡す街中の通りという通りに灯ったランタンの光達はまるで星空のようだろうね。

きっと時間が止まったみたいに綺麗なんだろうね。

僕はとっても楽しみにしていたんだよ？

さあ、はやく行こうよ！

ミッドナイト・パレード

(作詞 作曲 jacky penguin dog 編曲 nemoasakura)

夜を巡る衛星は陽炎 優しく街を揺らす炎  
窓を開ければ明かりは七色 空へと放つ思い出のようだね

きっとそうさ この街は  
闇の中へ 沈む

そっと踏み出す 思い出を明日へ

夢の後まで覚えていたい 君と僕との時間旅行さ  
きっと街では明かりが灯る 夜の静けさで

暗い空のあの黒い雲たちが 何も映さないように  
星の合間 ただ暗いばかりで とてもさみしげに

きっとそうさ この街は  
闇の中へ 沈む

そっと踏み出す 思い出を明日へ

夢の後まで覚えていたい 君と僕との時間旅行さ  
きっと街では明かりが灯る 夜の静けさで  
不揃いな星 二つならんで 月に隠れて 木星まわり  
騒がしい街 静めるために 僕ら歩き出す

ミッドナイト・パレード・アウトロー

(作詞 nemoasakura 作曲 jacky penguin dog 編曲 nemoasakura)

まだ起きてるかい。今夜のパレードは忘れられないものになりそうだ。

君が手を引いてくれたおかげで迷子にならずにすんだ。

でもあんなに急かさなくたって良かったじゃないか。せっかく君が買ってくれたカエデの蜜の飴だってゆっくり味わっていたかったよ。

あやうく小熊のチンドン屋にぶつかりそうになって睨まれたじゃあないか。どうしてくれるんだい？

でも教会の屋根から見た景色は素晴らしかった。

パレードの光が僕らを照らして。この街に僕と君以外は誰もいなくなったような気がして。

七色の花火が上がったときに君は『これを見せたかったんだ』って言ったね。

でも僕は実はね、花火よりもそのときの君の横顔の方がずっと魅力的だと思ってた。

天と地の星達に照らされた君をずっと見ていたって、そう思ったんだ。

ねえ君。ん？そうか…もう眠ってしまったんだね。

おやすみ。またあした。僕たちは今夜、きっと良い夢がみられるよ。

bellefleur are

結川ユイ (vocal)

なみか (story teller)

nemoasakura (sound)

神山高志 (artwork)